

2020. 1. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

### 【山口県子ども読書支援センター行事】

#### ★幼児のためのおはなし会

○日時：令和2年2月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《1月のおはなし会で使った本》

『しょうがつがくると』 川崎洋/さく 鈴木出版 2012

『ねずみのすもう』 わたなべさもじろう/絵 鈴木出版 1998

『ねずみのいえさがし』 ヘレン・ピアス/さく 童話屋 1984

『あぶくたった』（大型絵本） さいとうしのぶ/構成・絵 チャイルド本社 2019

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：[a50401@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp)）

#### 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

##### <絵本-3, 4歳から>

『うさぎのみみしばり』 浜田広介/作 パーサンスレン・ポロルマー/絵 鈴木出版 2019.11 ¥1400

ある日、うさぎがふもとの町のろばの床屋にやってきた。「おねがいます。ちょきちょきを」と椅子に座り散髪が始まると、どうしても長い耳がびくびくしてしまふ。「これはいけなない」と耳にぐっと力をいれるがききめがない。最後にうさぎが床屋に頼んだ方法は…。一生懸命耳に言い聞かせようとするうさぎの様子が可愛らしくほほえましい。ひろすけ童話の可愛い絵本。

##### <絵本-5, 6歳から>

『マルをさがして』 山本久美子/さく・え ひだまり舎 2019.11 ¥1800

犬のマルがタケルの大事なコスモスの鉢をたおしてしまった。「マルなんかしらない！あつちいけ！」と叱つたら、マルはどこかに行つたきり帰ってこない。台風が迫るなか心配になったタケルは、マルを探しに外へ。あちこち探しまわるとみつからない。次第に風が強くなり吹きはじめ、雨がざんざんぶりに…。黒と赤で描かれた力強い画から、台風の緊迫感や少年の不安な気持ちが伝わってくる。

『父さんがかえる日まで』 モーリス・センダック/さく アーサー・ピナード/やく 偕成社 2019.12 ¥2000

父さんは船乗り。父さんが帰るまで、アイダは赤ん坊の妹の面倒をみなくてはいけなない。アイダがちょっとよそ見をしている隙に、妹はゴブリンたちにさらわれてしまふ。アイダは救出に向かうが、果たして妹を取り戻すことができるのか？センダックの三部作の中の一冊で、不思議で美しい絵本。1983年に福音館書店から出版された邦訳絵本『まどのそとのそのまたむこう』の新訳。

##### <絵本-小学校低学年から>

『なんだろうなんだろう』 ヨシタケシンスケ/著 光村図書出版 2019.12 ¥1500

「がっこうってなんだろう？」「ランドセルでいくところ？」「いままでかかんがえたことないことをかかんがえるところ？」しあわせって？自立って？普通ってなんだろう？ヨシタケシンスケが12のテーマの「なんだろう？」を徹底追究。身近なことを改めてじっくりと考えるきっかけになるユーモア哲学絵本。道徳の教科書（光村教育図書小1～中3）のコラムに書きおろしを加え出版。

##### <絵本-小学校中学年から>

『おれ、よびだしになる』 中川ひろたか/文 石川えりこ/絵 アリス館 2019.12 ¥1400

小さい頃から相撲が好きな僕は、いつもテレビで相撲観戦。好きな力士はいるけれど、一番好きなのは呼出さん。5歳の誕生日にお母さんが大相撲福岡場所に来て行ってくれた。その時に出会った呼出さんに憧れ、僕は呼出になることを決意する。角界の縁の下の力持ち、呼出にスポットをあて、その仕事に魅せられた少年の夢と成長を描く相撲絵本。モノクロの中の黄色い着物が印象的。

##### <絵本-小学校高学年から>

『せかいのくにておめでとう！』 野村たかあき/作・絵 講談社 2019.11 ¥1500

新しい年の初めの日。雪が降るなか、僕はおじいちゃんと神社に初詣。「しんねんあけましておめでとう！」アメリカのニューヨークでは、夜なのに昼間のような明るさでみんな大騒ぎ。「Happy New Year！」スペインのマドリッドでは、12粒のぶどうを食べて新年の幸運を祈る。「フェリス・アニョ・ヌエーヴォ！」世界の国々のお正月の過ごし方とあいさつを紹介した版画絵本。

『西行一鼓ヶ滝』 神田松之丞/監修 石崎洋司/文 山村浩二/絵 講談社 2019.12 ¥1500

平安時代末期に活躍した歌人西行が、兵庫県の鼓ヶ滝を訪れる。当時、自分以上の歌詠みまいないとうぬぼれていた西行。滝をみて詠んだ自分の歌に酔いしれていたところ、夜になってしまう。ようやくみつけたあばら家には、思いのほか品のある老夫婦と孫娘がおり、そこで一夜を明かすことに…。講談絵本シリーズ『大岡越前-しばられ地蔵』『宮本武蔵-山田真龍譚』の3冊同時刊行。

##### <絵本-中学生から>

『はぐれくん、おおきなマルにであう』 シェル・シルヴァスタイン/作 村上春樹/訳 あすなろ書房 2019.11 ¥1500

自分をどこかに連れていってくれるだれかを待っている、はぐれくん。なかなかピタリはまる相手に出会えない。ある日、大きなマルに出会い、「きみはたぶん、じぶんだけでころがれるよ」と言われ…。『ぼくを探しに』（講談社）の続編を村上春樹の新訳で再刊。自分の足りない部分を探しに行くマルの話と一対となった、マルくんが通りかかるとを待っているかけらの物語。

##### <読み物-小学校低学年から>

『はるかちゃんが、手をあげた』 服部千春/作 さとうあや/絵 童心社 2019.11 ¥1000

2年2組のはるかちゃんは、入学してから一度も教室で声を出したことがない。隣りになったクラスの人気者のあきら君は、そんなはるかちゃんの様子を見て、代わりに手を挙げて答えたり、給食の苦手な物を食べたりしてくれた。そんなあきら君が風邪でお休みの日、ついにははるかちゃんが声を出さなくてはならない状況がおとずれる…。お互いの思いやりが心地よい幼年童話。

#### <読み物一小学校中学年から>

『ピンポン兄弟ゆめへスマッシュ!』 吉野万理子/作 サトウユカ/絵 講談社 2019.11 ¥1250

佑樹は卓球の全日本選手権小4以下の部でベスト16に入る実力の持ち主。4年生になるとナショナルチームのメンバーに選ばれ、東京ナショナルスポーツセンターで合宿生活を送ることに。そこで、アスリートとして、学校の勉強や語学、栄養のことも身につけておかななくてはならないことを知る。スポーツの楽しさやよろこびをお話を読んで感じる「シリーズスポーツのおはなし」。

#### <読み物一小学校高学年から>

『きつねの時間』 蓼内明子/作 大野八生/絵 フレーベル館 2019.9 ¥1400

小6のふみは画家の母親と二人暮らし。不器用な母親の代わりに作るインドカレーは、15分間じっくり玉ねぎを炒め、スパイスを量って作る本格的なもの。この15分間を「きつねの時間」と呼んでいた。ある日、死んだと思っていたパンが生きていることを聞かされ驚くふみ。どうにか探し出して会いたいふみだったが…。第18回創作コンクールつばさ賞<読み物部門>優秀賞作品。

『中くらの幸せの味』 みとみとみ/作 岡田千晶/絵 国土社 2019.10 ¥1400

小5の盛太郎の家は商店街の中華料理屋。ある日、父ちゃんが出勤中に交通事故に遭ってしまう。最近近くに来てきたレストランの影響か、客足が遠のいている時にダブルパンチ。そういえば商店街にも閉店する所も増えてきており、どうにかしないと、幼馴染のすずと知恵を出し合ったアイデアとは…。『毎日小学生新聞』連載を大幅に書き直して書籍化。

#### <読み物一中学生から>

『スアレス一家は、今日もにぎやか』 メグ・メディナ著 橋本恵/訳 あすなろ書房 2019.12 ¥1500

フロリダの名門私立校に転校した中1のメルシ。友達関係や勉強が大変なのに、双子の面倒を見たり、仲良しの祖父が変わってしまったり、我慢することが多くてついには爆発…。貧しくても助け合って暮らすキューバ系アメリカ人の家族の中で、アルツハイマー病の祖父を通して、変化していくことを受け入れていく少女の葛藤を描いた、温かい家族の物語。2019年ニューベリー賞受賞作品。

#### <ノンフィクション一小学校低学年から>

『校庭のかんさつ』 林将之/文・写真 ほるぷ出版 2019.12 ¥3000

自然観察を簡単に楽しむためのヒントを教えるガイドブック。「色さがし」「ひっくり返す・ほる」「木の違いを調べる」など、校庭での自然観察のやり方をイラストや写真で紹介する。「見よう、せまろう、とびだそう!しぜんガイドブック」。他に『まちのかんさつ』『里山のかんさつ』。著者は田布施町出身で、県内小学校が取材協力。生活科の自然観察の学習で活用できる。

#### <ノンフィクション一小学校中学年から>

『すがたをかえる食べもの つくる人と現場②米』 服部栄養料理研究会/監修 あすなろ書房 2019.12 ¥3000

米からごはん、米からおもち、米からみりん等へかわる過程と、それに関わる多くの人々を、たくさんの写真やイラストとともに紹介する。1つの食材が様々な物にすがたをかえる過程を知り、多くの人の知恵と努力が注ぎこまれていることを学ぶ。他に「①大豆」「③麦」「④とうもろこし」の全4巻。小3国語科「すがたをかえる食べ物」の学習で活用できる。

#### <ノンフィクション一小学校高学年から>

『大勢の中のあなたへ 3』 ひきたよしあき/著 朝日学生新聞社 2019.11 ¥1300

「きちんとしない人が嫌いなあなたへ」「モノが捨てられないあなたへ」「アイドルになりたいあなたへ」等、言葉のプロである著者が、子どもたちの様々な悩みをこたえる74の手紙形式のコラム。「子育てに失敗したとなげく親のあなたへ」「子どもを甘やかしている親のあなたへ」等、親に向けた9編も興味深い。『朝日小学生新聞』の人気コラムを書籍化。

#### <ノンフィクション一中学生から>

『プラスチック・スープの地球 汚染される「水の惑星」』 ミヒル・ロスカム・アピング/著 藤原幸一/監訳 ポプラ社 2019.11 ¥3800

プラスチック・スープとは、地球の海や土壌、空気までもがプラスチックに覆い、つくされて引きおこされる環境問題のこと。オランダでこの問題に取り組む著者が、現状と課題を提示し、対策を提案する。海を漂い、細かく砕け、生き物の体内に入るなど、プラスチックで溢れる地球の現状。技術やアイデアによる改善の取り組みなどをインパクトのあるカラー写真と分かりやすい説明で伝える。

『戦場の秘密図書館 シリアに残された希望』 マイク・トムソン/著 小国綾子/編訳 文溪堂 2019.12 ¥1500

政府軍による完全封鎖、日常的な空爆、食料・物資の絶対的不足というシリア内戦下の町ダラヤ。その瓦礫となった町の地下に「秘密の図書館」があるという噂を聞いたBBCの特派員記者が、接続の不安定なスカイプやSNSを通して、ダラヤの若者たち取材したノンフィクション。「体が食べ物が必要とするように、魂には本が必要なんです」という若者たちの必死な思いが伝わる。

#### <研究書>

『はじめよう!ブックコミュニケーション 響きあう教室へ』 村中李衣、伊木洋/著 金子書房 2019.11 ¥1700

先生が教師という立場に縛られず、人間として、本との思い出や、本をきっかけにふと気づいたことを自由に子供に語る「ブックコミュニケーション」という新しい手法を提案。小学校(低・中・高)、中学校での毎月のブックコミュニケーションの事例を掲載し、実践したベテラン先生や新人先生、学校司書の報告も収録する。ブックコミュニケーションに活用できるブックリスト付き。

『多様なニーズによりそう学校図書館 特別支援学校の合理的配慮を例に』 野口武悟、児島陽子、入川加代子/著 少年写真新聞社 2019.11 ¥1700

理論編では、学校図書館が全ての子供に活用されるために、多様なニーズを把握し、的確に提供するための基礎的な環境整備や、合理的配慮の提供の仕方についてまとめる。実践編では、鳥取大学付属特別支援学校での障害特性や発達段階に応じた環境整備や個に応じたサービス、学校図書館を活用した授業の事例などを具体的に紹介する。「シリーズ学校図書館」。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。